



鎌倉文学館

鎌倉市老人クラブ連合会
 発行人 大久保安夫
 編集人 都筑 健一
 伊藤 実
 高橋 斌
 〒248-8686
 鎌倉市御成町18-10
 鎌倉市老人クラブ連合会
 (愛称・ゆめクラブ鎌倉)
 ☎(0467)61-3930

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212



かまくらびとに聞く

鎌倉文学館館長 山内 静夫 氏

七月五日、私たちはバラが咲き誇る鎌倉文学館の前に立った。今日はシリーズ「かまくらびとに聞く」第五弾に登場いただく山内静夫氏インタビューの日。

山内氏は鎌倉文士として名高い里見弴の四男であり、作家有島武郎、画家有島生馬を伯父に持つ。また、松竹大船撮影所の歩みをつぶさに見てきた証人、映画監督小津安二郎の数少ない証言者でもある。独特の時間と空間で人生を謳歌している山内氏に、我々はたくさんの質問を用意した。山内氏から流れ出てくる温情あふれる言葉の数々を、私たちはゆっくりとかみしめたのだった。

(二頁へ続く)



9月15日 活性化委員会シンポジウム (7面より)

活性化委員会本格始動へ

県下の老人クラブの会員が、このところ年々減少しています。これは全国的な傾向のようです。一方、これから先五年間に六十歳を迎える団塊世代は一千万人ともいわれ、そのうち四〇〇万人がいずれは勤め先を退職されます。

市老連としては、これに対応するため昨年十一月に役員十三名で活性化委員会を発足させ、これまでに県老連の担当者や「百歳万歳」の編集長植松紀子氏をお招きして、意見をいただきました(七面に掲載)。しかし、その対応策は各地区によってさまざまで、画一的に決めることは難しく、会員の意見、要望に沿って実施していくことが最も大事なことで痛感しています。ついでには各単位クラブの意見を地区長が掌握して下さるこ

とはもちろん必要ですが、声なき声」を把握することも大切だと考えます。

いずれにしても、深刻な会員の減少の抑止策と新規加入会員の受け入れ策は、皆さまの英知をお借りして、来春を目標にまとめたいと考えていますので、何とぞお力添えのほど、お願いいたします。

(活性化委員会委員長 中田 良司)

ゆめもも57号主な も く じ

- 2面 山内静夫氏インタビュー
- 3面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 5面 鎌倉ゆかりの人・中野孝次
- 7面 加入増強・頑張るクラブ成功例
- 8面 座談会・鎌倉にあった映画館
- 9面 鎌倉散歩×私の好きな昔の鎌倉
- 10面 会員文芸、表紙の写真
- 12面 やまももさん、ご意見大募集

鎌倉市の人口175,778人 高齢化率(65歳以上)全市24.7%(地区別※ 鎌倉地区7.6%、腰越地区4.2%、深沢地区4.8%、大船地区5.3%、玉縄地区2.8%) 平成18年9月末日現在 ※市全人口に対する割合
 鎌倉市老連会員数4,189人(地区別 鎌倉地区1,421人(33.9%)、腰越地区445人(10.6%)、深沢地区704人(16.8%)、大船地区957人(22.9%)、玉縄地区662人(15.8%) 平成18年10月末現在
 ★鎌倉市老連ホームページアドレス <http://www.kamakura-rouren.jp/> ★メールアドレス info@kamakura-rouren.jp ◎数字は住民基本台帳をもとにしています

里見弴、久米正雄、川端康成、大佛次郎は鎌倉文士の四大巨人として、今も愛されて続けている。中でも大御所的な存在だった里見氏は、鎌倉の有島家の別荘で幼年期を過ごした。生まれは横浜だが、気持ちは鎌倉ッ子」と言っほと鎌倉を愛し、鎌倉に居を構え、山内氏はそこで産まれる。

「私が小さい時は、父は東京で仕事をしていたので、ほとんど鎌倉にはいませんでした。父が鎌倉に帰るたびに、我が家は緊張感に包まれる。父とは家族全員が距離感を感じていました」。里見家四男として育った山内氏は、父から可愛がられた記憶はないと語る。しかし、隔たりがある中でも、鎌倉文士たちと交遊する父は魅力にあふれ、誇らしくもあった。



学生時代には映画さんまの生活を送る。洋画を好んで見ていたが、黒澤明監督『姿三四郎』と木下恵介監督『花咲く港』に感銘を受け、日本映画に対する気

持ちに変化が生まれた。また、中学時代から父の小説を読み始め、小説家という職業にも大きな影響を受ける。「クリエイティブな仕事は、完成した時に大きな喜びを感じます」、幼い頃から父を見て学んでいたのだろう。山内氏は新しい時代とともに歩んでいこうと映画プロデューサーを目指し、昭和二十七年、久米正雄氏の口利きで松竹に入社。その世界へ足を踏み入れた。

「映画を作る上でも人間の相性があるんです」。山内氏が携わった映画は全部で二十八本。中でも番匠義彰監督と組んだ作品が一番多く「一度コンビを組み相性がいいと、次もお互いに組みたくなる」という。しかし、雪国を監督した大庭秀雄氏とはあまり相性が良くなかった。普段は親しくしているのに、撮影の現場に入るとお互いの意思が伝わりにくくなってしまうのである。

どの撮影でも俳優さんやスタッフたちと、うわべで接しているだけではない映画は作れない。「映画はたくさんの人たちで作り上げるものだけど、監督を中心にみんなの気持ちが通い合うようになること、いい映画を作るコツはそれだと思

山内 静夫氏 プロフィール

やまのうち しずお 1925 年鎌倉生まれ。鎌倉文士里見弴の四男。作家・有島武郎、画家有島生馬の甥。昭和 23 年松竹(株)に入社。大船撮影所プロデューサー、取締役を経て、平成 4 年(株)鎌倉ケーブルコミュニケーションズ社長、同 14 年より会長に就任。現在は鎌倉文学館館長、(社)鎌倉商工会議所副会頭、(社)鎌倉同人会会長ほか、多くの要職を務める。著書に「谷戸の風」「松竹大船撮影所覚え書」など。鎌倉市御成町在住。



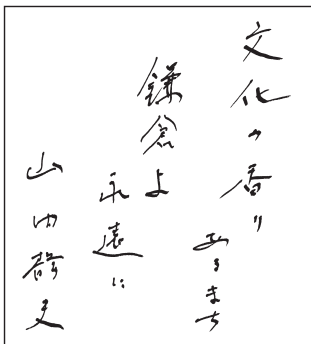
います」。それをコントロールするのがプロデューサーの仕事なのだろう。

「小津安二郎先生に会えたことが私の人生を決定づけてました」。小津氏とは松竹に入社した時に知り合いました。昭和三十一年『早春』から六本の小津作品を手がけた。小津氏は第一級の監督であり、人生の師でもある。その存在は映画人生の心よりどころとなり、人間としても大いに影響を受ける。どんな仕事をする時でも、「小津先生ならこう

する」と考え、大きな指針となったのである。

家族の風景を撮り続けた小津氏の格調ある映像には、庶民の喜怒哀楽が溶け込む。小津映画三部作の『晩春』『麦秋』『東京物語』は、国際的にも評価が高い。しかし、作風の異なる『東京暮色』は「ベストテン十九位か」といつて笑っていたという。『東京物語』で絶賛をつけたのなら、次はジャンルを変えてみようと思家なら考える、少し冒険する気持ちもあったのだろう、と思ひ出話に花が咲く。

遺作となった『秋刀魚の味』は、岩下志麻が名演技をみせた。「監督があと四、五年映画を撮ってれば、永遠のマドンナ原節子のように、岩下志麻の主演で二、



三本いい映画ができていたと思います」。岩下志麻もおそらく残念に思っているであろうし、山内氏自身も惜しいと思う気持ちでいっぱいなのだ。

◇ ◆ ◆ ◆ ◇

山内氏は、御成町末広シルバークラブに所属し、我々ゆめクラブ鎌倉の一員です。同士として、また、良きアドバイザーとして、ゆめクラブ鎌倉の会員に向けて、応援メッセージをいただきました。

「同年代の人々が集まって交流をするということは、精神衛生上非常にいいこと。年齢は見た目ではわからない。いつまでも若く元気でいるためには、自分が好きなことを大事にし、それを高める。自分の努力次第でできることから、いつまでも志や夢をもち続けること、それが一番大事な事ではないでしょうか。」

ゆめクラブ鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報のコーナー

平成十八年度 功労者のつどい開催



十一月九日、鎌倉生涯学習センターホールで、平成十八年度鎌倉市老人クラブ連合会功労者のつどいが開催されました。

中田副会長の開会のことばではじまった第一部式典では、大久保会長のあいさつにつづき、功労者への表彰が行われました。今年度は優良老人クラブ二団体、十年在職功労会長二名、五年在職功労会長十四名、特別表彰(百歳を迎えた会員)三名、一般会員功労者七十五名が表彰を受けました。つづいて市長をはじめ来賓の方々に祝辞をいただいた後、極楽寺橋会山下氏が受賞者代



▲会場をわかせたピエロたちとの共演

▼不思議なマジックの数々を披露



▲マイム体操 見えない壁がたくさん?!

表でお礼を述べ、最後に坂尻副会長の開会のことばをもって第一部は終了しました。第二部のアトラクション(マジック・パントマイム)では、驚きと笑いの連続! 会場全体に夢があふれていました。

地区だより

鎌倉第一地区

地区活動の

状況報告と提案

鎌倉第一地区長

春日 一郎

現在、市老連は七つに分かれて、それぞれの地区活動が連合会にそのままつながるのが正常な形と理解されている。しかし、これが十分機能しないと当初期待した成果が得られない。ものごとを進める上で一番難しいところである。この隘路(あいろ)をどう切り抜けるか、対応を誤ることなく行動することが好結果を生むことになる。

各地区で頻繁に活用されているバス旅行も活性化に役立たせようとすると、それなりに配慮が必要である。それには各単位クラブの会長ならびに担当者が相互理解を深めるため、魅力ある見学先をどのように選定するか、その方法と場所で

ある。

本年四月の例をあげれば、まず見学先を午前と午後に分け、午前は全日空機体メンテナンスセンター、午後は三溪園と趣向を凝らし、昼食の場所を横浜の中華街としたことが参加者



に歓迎された。しかしその後の反省会では別の角度から厳しい注文も出て、コース選定はなかなか難しいものである。この

ゆめクラブ鎌倉作品展開催

11月8日～14日、JR鎌倉駅地下道「ギャラリー50」で、ゆめクラブ鎌倉作品展が開催された。今回は腰越・深沢地区の活動状況をパネルで紹介するとともに、25名の会員が作品を出展。プロ顔負けの作品の数々に多くの人が足を止め、感嘆の声をあげていた。



ことは、これからは試行錯誤を繰り返しながら軌道修正されてゆくであろう。ここで地区活動について若干つけたしたい。市老連の組織が変更されてから、はや一年数カ月が経過した。この組織変更で新たに「地区長」が誕生したが、この地区長の役割がまだ会員には十分理解されていないのが現状である。今後、地区の活性化に向けて地区長の役割は重要な「鍵」を握ることになると確信している。

第42回 老人大学寿講座開催

川端康成の作品と生きざま



講師・文芸評論家 尾島 政雄 氏

▼尾島氏の講演に思う

七月三日からレイウエル鎌倉で、恒例の寿講座が開催された。三日目の久能講師が急病で中止となったが、文学・健康・歌唱と、参加者は講演会の魅力を充分に味わわれたようだった。

今回は尾島氏の話について、その要点と私感を交えて書いてみたい。

この日は『康成文学の感性の探究』と『日本語の曖昧さのままの正確でもある独特の文学』（大江健三郎の川端評）に焦点をあて、大変納得のゆく鋭い指摘で、今後の小説の読みこみ方の参考になった。例えば『伊豆の踊子』の峠の辺で後から来る女たちが、自分（康成）を「いい人ね」「それはそう、いい人らしい」「ほんとにいい人ね、いい人はいいね」と、この流して読み過ぐす会話も尾島氏の声の抑揚によって、意味ありのうまい会話の微妙さが理解される。

また、峠のトンネルを希望の象徴として康成は捉える。



彼には生い立ちから「孤児根性」があったが、その脱却をテーマとして重ねたとも考えられ、踊子の山越えは、彼の文学を踏み出した重要な体験を表現したとも説かれた。次にノーベル文学賞受賞記念講演で、当初は『美しい日本と私』が演説のときには「と」から「の」になった。たった一字の違いは、康成自身の日本文化の中における自負となつて変わったと、わずかな一字の意味深さも、康成理解の一つのポイントに違いがい。

か住んでいなかった宅間ヶ谷ではない。また、九年間住んだ蒲原有明の借家での覚園寺道入口の谷戸の雰囲気は大いに愛したことではあるが、描かれているのはここでもなく、二十四年から甘縄神社の境内隣に住み、裏の兜山、興山の裾が自庭に広がる自然を五年かかってたづなり描きこんだこの地こそ『山の音』の舞台として特定されることにまちがいない。

『山の音』は康成五十歳から五十五歳の作。信吾は六十一歳。私は二十二歳のとき読んだきりで、あとは成瀬の作品（原節子・山村聡）をみて読んで知っているつもりで五十年だった。尾島氏の講演に刺激されて五十年ぶりに再読、今や信吾より一回り上の歳、長男一家と二世帯住宅である。もちろん今回初めて読むような読書体験である。また、いろいろな発見もあった。

晩年の『みずつみ』『眠れる美女』『片腕』の主人公の萌井が信吾にもみられたのだ。尾島氏の講演で康成文学を読みだしたのは、私だけではないようだ。講演会の良さはある刺激を受けて、その後の行動に反映させるといえるのはこれが講演会を上手に聞く一手である。

蛇足だが「康成も、漱石も昔読んだ」で済ませているのはもったいない。今こそ名著は「読み時」なのである。（K）

教養部 第1回 鎌倉の歴史と秘宝を探る研修会



都筑 健一（平成18年5月24日）

大事な寺となつて今日に至る。

次に満福寺に寄る。行基が聖武天皇の命により、関東で流行している病気を除くために鎌倉を訪れ、薬師如来を彫つて寺を建てた（天平十六年・七四四年）。義経が平家を滅ぼして凱旋したのに、頼朝は鎌倉にいれ

義経への関心がより高まっている折、四十三名の参加者を得て、腰越海岸に近い日蓮宗の寂光山龍口寺をまず訪ねた。この寺は文永八年（一二七一年）日蓮が処刑されそうになった龍ノ口刑場に、弟子の日法が草庵を結んだのが始まりといわれる。その後、慶長六年（一六〇一年）日尊の発願により、寺として整備された。日蓮は「立正安国論」を幕府に提出し、法華経に基づく政治を求め、他の宗派を非難した。そのため龍ノ口で処刑されることになったが奇瑞が起こり、佐渡に島流しとなった。法難の場所に日蓮が亡くなってから草庵を置き、その後大本堂ができ、輪番寺に守られる寺になつて明治十九年から貴主制度により、日蓮霊跡の

なかつた。弁慶が「腰越状」を書いて弁明了。追われる身となつた義経の一生を表現した襖絵、本尊の薬師如来、腰越状の版木（江戸期）、弁慶の腕などを拝観した。悲劇の武将として判官びいきの波が広がっている。

ボランティアガイド協会前会長の戸口和江先生は、ご多忙の最中にもかかわらず、豊富な資料を持参されての講義は熱が入り、こゆるぎ荘においての休憩時も質疑や意見も多く、満席の受講者からは感謝の声が絶えなかつた。



中野孝次「今ここに生きる」

―ハラス・断章取義―

最後の言葉など―

二階堂白寿会 門田 京蔵



「生きる心の畝から発せられた言葉や文章がある。だから、それは人の心に直截に響く。ああ、この作家は嘘を言っていない。信じられる。それが文学として本物であるということだ」文芸評論家・秋山 駿

中野孝次は、まず自分を組上にのせ真剣に生きること自分の文学の髄にした。

去る七月十六日は、中野の早くも二周忌であった。前号には中野さんとの一期一会を書いた。今回は素顔の魅力と文業についての総括だ。

親友の加賀乙彦が追悼文で、一本気・興奮性・短気です。かつ、我慢のできない性格だが、先輩と同席上では懇切丁寧に世話をするやさしさを持ち合わせた人であったとある。彼の過去からいくつかのエピソードをあげてみよう。

(1)父の大工の後継ぎを嫌って自ら進路を文業と決め、高校を受け、初志を貫徹した。

(2)十八歳のとき、阿部次郎の『三太郎の日記』が当時は仲々手に入らず、岩波茂雄に直訴状を書かずにはいられなかった。

(3)85年、『文学界』で『戦後文学



の『内部』と『外部』という共同討議があり、終始相当険悪な言い分が多かったが、柄谷行人に対して「何言ってるやがんだ、バカ野郎。口惜しかったら外国かぶれの言葉じゃなくて、ちゃんと自分の言葉で話してみやがれ」のセリフで「ア」と幕切れとなったが、この部分編集者の見識で削除されず、六十歳の中野の喧嘩早い姿が残っている。

(4)99年、洋光台駅前団地の大樫が駐輪場拡張のため伐採されることになった時、「この木を切る者、天・人ともに許さず 中野孝次」と張り紙を書いた。この麗々と書かれた墨書のお陰で樫の木は残り、人々は安堵した。

(5)妻への感謝とひそやかな生前葬をかねた金婚式を開く。02年五月、八十人を招きホテルの意見も無視して、自身のアイデアで「ごちゃごちゃ」に着席させた。初対面の人たちはすぐに「ごみスピーチも個性的で、「私の人生の一面を鮮やかに切りとってくれた」と満足。結局、死の二年前のお別れの会となった。

(6)彼は「時代の方が僕に近づくと日常生活をよく語った。四、五時起床、犬にせかされて朝夕二回、計二時間以上散歩。夕方五時から自ら熱燗三本をつけて、八時には就寝。兼好の言葉にならって「気のすまぬこととはやらぬだけ」と、冠婚葬祭・パーティーは極力避け、読書は古典さんま

い。『清貧の思想』プー

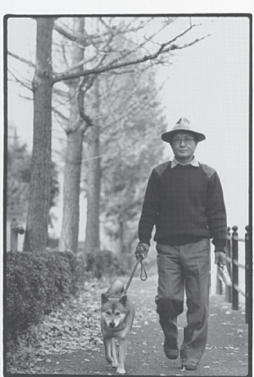
ム以来、電話は回避、パソコン・FAX・インターネットとは無縁の生活。近隣の暮をうちにいくことには熱心だった。

さて中野の人生にあって、犬(特に柴犬ハラス)との出会い

は運命的なものだった。ハラスの死後四年の空白はあったが、三十年同種の犬と暮らして『現代人にとって犬とは』と単純だが心に迫る問題を提起してくれた。「こちらの愛したいという本能を呼び起こす生きものがそこにいて、愛を受けとめ向うもまた正価でそれに応じる。この心の通い合い方が何ともいえずいいということだ」と言う。

私たち夫婦も、犬の平均寿命も知らず、安易な気持ちで室内犬を飼ったが、十二歳の死まで、

中野孝次展 ―今ここに生きる



その純真無垢な行動は、生活の彩り、アクセントとして思い出に満ち溢れ、夫婦がいかに癒されたかしのれない。私たちは彼亡きあと、他の犬を求めることはなかった。

『ハラスのいた日々』という動物文学の傑作も、高橋氏(後述)の講演によると『ハラス失踪の顛末』68。と『その死』68。の二短編を雑誌に書き、ハラスの死後あんまり悲嘆にくれているのを見て、高橋氏が「それならいっそ、その思い出を全部書いてしまつたら」と提案した。中野は何度も書き直し、彼のつけた題は『犬が犬であること』、または『犬の条件』で

あった。「これでは先生、売れませんよ」と、高橋が考えた『ハラスのいた日々』に落ち着き、これが大ヒット。二人の温かい交情から生まれたこの本は、中野孝次の代名詞ともなった。

そして、彼の文業の最大の功績は、先輩たちが難渋な解題しかなかった先哲たちの言葉を「断章取義」と彼が自分で呼んだように、平易に説いたことだ。「一言半句でもいいから、ピカッと気に入ったものがあつたら、それをひっぱり出して今の生活の中で生かす。古典に近づく一番の方法だ」と好きな文章を写した。

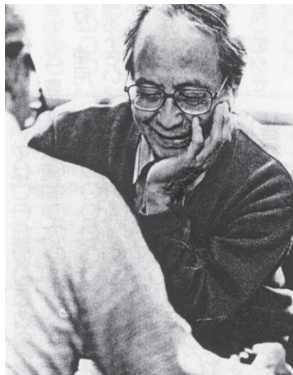
彼が色紙がサイン本の識語に「吾が生、既に蹉跎たり、諸縁を放下すべき時なり」とか「存命の喜び日々を楽しまざらんや」と徒然草からよく引いた。

さてこの夏、中野に関する三つの動きがあった。その一は、神奈川県立近代文学館(二年前まで館長)で六月十日から七月三十日まで『中野孝次展』今こ

こに生きる』が開かれ、その二は七月一日に『作家中野孝次の生き方―担当編集者(文芸)28年の思い出』として、出版社中、唯一人死後を托され、死の連絡を受けた高橋一清氏の涙ながらの感動的な話を聞いた。その三は、この展示のため中野家より文学館に運ばれる資料整理中に『ガン日記』(04・2・28～3・18)ー

ガン判明から記述され、一旦退院した時メモをみて書かれたものがみつかった。

六月十日発表の『文芸春秋』に全文掲載され、実物は展示された。高橋氏によると「自身確認のための書き置きであったと考えられる」とある。この日記



を書いている期間には、最後の刊行書『セネカ 現代人への手紙』のあとがきを書いた(後記)。

高橋氏は雑誌冒頭の解説で、「中野氏は昭和と平成の世を真摯に生き、文学者として言行一致の生活を送り、簡素な暮らしの中で、心の豊かさを求めた。この『ガン日記』は、人がいかに生きるかを考えるとき、文の力、言葉の力がどれほど支えとなるかを示す。文学者の真実の記録であるとともに、まもなく到来するガン患者五百万人時代の指示ともなるであろう」と結んでいる。

最後に『ガン日記』から中野の最後の教えに耳を傾けよう。「まだ前にずっと命がつづいていような気がしていた時と、残り一年と限られた時とで、別に生きる心掛けが変わることはない。前々から、生きるのは今日一日、『今ここ』の時空しかないとして生きてきた。これが生涯かけて文学をやつて来て最後に得たものだ。生きるのは『今ここ』しかない」と覚悟すれば、先に時があるかないかは何の変わりもないわけである。人の生きる時は『今ここ』だけ、これは唐代禅僧のだれもが実行した生であり、ローマのセネカが言うところでもある。(中略)今、延期期間が打ち切られようとしている時に直面して、あらためてセネカのその言葉を心に言い聞かせる」。

『ガン日記』十月末単行本となった。

「鎌倉福祉まつり」バザーで参加

女性・社会活動部 部長 伊藤 武子

秋の風を感じる九月三日、澄みきった青空のもと「鎌倉福祉まつり」が市社会福祉センターで行われ、ゆめクラブ鎌倉も参加させていただきました。

午前十時、テープカットの後開場、あつという間に私たちの売り場には二重三重の人垣ができ、「我ら姥桜軍団の出番」と、みんな張りきりました。会計の相澤さんはカバンを首からさげ、釣り銭の小銭を箱に入れて大忙し。品物は飛ぶように売れ、三、四十分で机



の上はカラとなり、午後二時までもたないという嬉しい悲鳴、一同顔を見合わせました。雑貨も男性の売り子さんが親切に説明をしながら完売。お客様とのやりとりも楽しく、疲れなど感

じませんでした。

いよいよお昼ごはん。例年通り赤飯とおでん、会長からの差し入れの焼き鳥に冷たい麦茶を交替でいただきました。外のテラスで食べる食事はおいしく、下の舞台では力強い和太鼓の演奏・フラメンコ・よさこい踊りなど、みんな木陰で楽しそうに見物していました。お祭りっていいなと思います。参加するものだとも…。二時少し前に売上の計算をして社協へ報告。今年は去年より品数が少なかったのが心配していましたが、昨年と変わらぬ売上があり、良かったと胸をなでおろしました。

健康に
老いよう

大蔵みなもとクラブ 壁谷 利之

百歳以上の元気なお年寄りの活動状況をテレビで見

て祝福するとともに、自分も生活に留意してあやかりたいという願望があります。私は現在八十五歳で、第二次大戦では南方を転戦しましたが、幸いにも生還しました。終戦後、会社勤めで順調に定年を迎えました。その後、家族全員で行った数回の海外旅行や各種グループの年数回の国内旅行、その中でも特に、家内と弥次喜多の東海道五十三次を歩いたこと、自家用車での二回の四国八十八カ所巡りをしたことなどは良い思い出になっています。

現在まで家庭的にも恵まれ「我が人生に悔いなし」でしたが、近年、体力の衰えを

よく努めます。



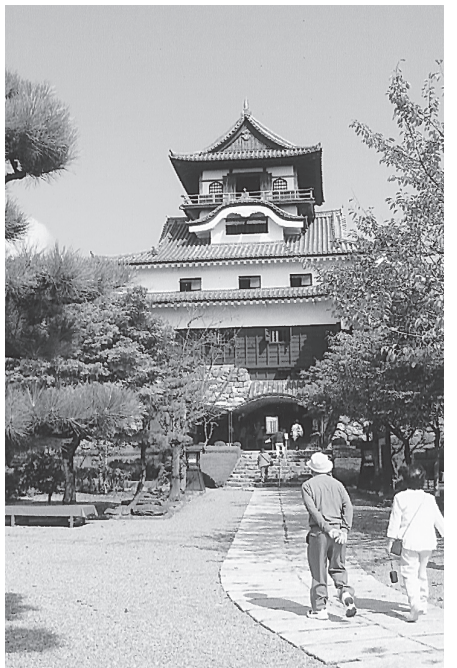
秋の研修旅行

世界遺産比叡山延暦寺と
国宝犬山城の旅

雪ノ下寿会 都筑 健一

九月六日から八日の二泊三日で秋の研修旅行へ出かけた。曇り日を定刻に出発、参加一〇名。バス三台は海老名SAで合流、大津ICを経て三井寺へ―天台寺門宗総本山園城寺・三井寺。再三の兵火にあい焼失したが、豊臣氏や徳川方の尽力で再興された。国宝、重要文化財、名園など貴重な寺宝を数多く伝えている。その後、雄琴温泉へ向かい、名湯に労を和ませ宴果てて就寝。

二日目は比叡山延暦寺へ。根本中堂で比叡山の教えの一端を僧侶が由緒を説く。一二〇〇年前、伝教大師最澄は日本の安泰と国民の幸福を祈って仏教を比叡山に開いた。鎌倉時代にはさまざまな名僧が比叡山で修行されたそう。戦国時代織田信長の叡山焼き打ちの後、徳川家よりの尊崇を受けて再建復興を経て現在



の堂宇。世界遺産の重みを感じさせる。琵琶湖大橋を過ぎ、瀬田で昼食後、有志で石山寺へ。歴史の香りに漂う花の寺、本堂は県下木造建築最古のもので、内陣は平安中期、外陣は淀君の修補になるもの、堂内「源氏の閭」は紫式部が「源氏物語」を書いたところと伝えられ、しばし追想にふける。長良川温泉へ。夕食後、軽装で観覧船へ。名物長良川の鵜飼観覧はおよそ二二〇〇年の歴史があり、宮内庁に属して現在に至るといわれる。漁法は鵜を使い、魚を捕る漁法で鵜舟が横隊で浅瀬に鮎を追い込んで



巻き狩りをする漁法だそう。狭いテールを挟んで両側へ窮屈に座る。十数隻の間を縫って鵜舟がゆっくりと繰り出され、鵜匠が操って篝火の照明をほのかに浴びて鵜飼を行う。何となく神秘性が漂い、歴史の流れを感じさせるようなものもある。舷々相摩して岸の砂利に乗り上がる。稲妻が再び一気呵成に奔り、続いて雷鳴がとどろき俄雨が襲来し水面を叩いてしぶきを上げる。夜も更けて終幕を降ろした。

最終日は国宝犬山城へ。別名「白帝城」。山内一豊ゆかりの城とある。岐阜城、小牧城を望み、決戦の地に思いを馳せる。戦国ロマンは古城のみぞ伝える。昭和十年国宝。他の彦根城・姫路城・松本城のなかでも最古の城である。

車中での懇談を楽しみながら帰途につく。今回の研修は、古都鎌倉が世界遺産



登録推進へと立ち上がり、認識を深める運動が盛り上がりを見せている時、有意義な企画であった。

活性化委員会加入促進シンポジウム



講師・百歳万歳編集長
植松 紀子 氏

老人クラブの 活性化について

講演要旨

今から六年前に老人クラブはピークを迎えました。その後、徐々に人数が減り、全国レベルで五十万人ぐらい減ってきています。

さまざまな地域取材してきましたが、地域に合わせた活動や、その地域にどうしたら入りやすいかをぼんやり考えるのではなく、みんなで話し合い、「みんなが楽しく」というキーワードが活性化につながると感じました。「楽しけりゃいいじゃない」、その気持ちがあれば年齢など関係ないのです。

ある会長は「老人クラブは交流作りの場」と語ります。若い時の思い出はたくさんありますが、地域に戻ってきたときに、地域の人みなで思い出を作る企画を考えるのもひとつの手です。元気な方だけが集まってやるのは意味がない。「一人の百歩より、百人の一步」という言葉がありますが、百人で一步を確実に、遅れようとしている人には「一緒に行くよ」と声を掛け

ていくのが、地域に合う老人クラブなのです。

活性化にはさまざまな方法が考えられますが、横浜国立大学林義樹先生の参画授業論という本は興味深い。参画授業論とは、授業に子どもたちがどうやって参画するかというのを書いています。内容をみると、クラス、生徒、先生との関係が、老人クラブ、会長、会員の役割と同じだということに気づきました。

学校で、子どもたちがただ先生が今日の授業をするのを待っているのが参集、先生が来る前に黒板消しを叩いておこうとするのが参与です。そして、「先生、今日はこういうのがやりたい」と意見を言うのが参画になり、みんなが参画すれば学習能力も上がるのです。これは老人クラブにもそのまま当てはめることができます。

人生に花開く時は必ずあり、若い時に花開く人もいれば、高齢期になって花開く人もたくさんいます。老人クラブの中で会員一人ひとりがきれいな花を咲かせ、老人クラブが地域の中できれいな花を咲かせられるように、みんなから注目されるようになったら、老人クラブも活性化できるのではないのでしょうか。

頑張るクラブ成功事例

西鎌倉山親寿会 会長・佐々木 俊文

加入増強への取り組み

会員はみな平等 人との絆をより強める

当クラブは、昨年四月に発足したばかりの新米クラブです。もともと当地区に

も、老人クラブがあつて三

ました。

十数名の会員で活動をしてきましたが、会員の高齢化、新規会員の増強不足、

スタート時は、三十三名でしたが、八月現在で七十

会員の自然減、世話役

一名まで増えてきました。

後継者難などの要因が

会員の平均年齢は七十一歳、

重なうって、解散せざる

六十五歳から七十五歳が多

を得ない状況になりました。

数を占めています。会の運

した。

営は、会長以下二十名の理

ところが、一昨年の

事が、毎月理事会を第三日

自治会役員が一年交替

曜日に開き、さまざまな情

で任期を終えるにあた

報交換、意見交換、協議を

って、このまま別れる

なごやかにおこなっていま

のは残念だ、せつかく

す。この日は「井戸端の日」

できた人間関係を大

として、非会員も参加でき

た熟年サークルを持ち

囲碁・将棋・カラオケなど

たいという熱意があつ

の同好会も開き、また有志

て、親寿会が結成され

による懇親会も開いていま



親寿会 ゴルフ同好会

今日からできる

会員増強大作戦



◆「楽しい」を共有しよう

地域の特性や状況にあわせて様々な活動に取り組み、あーでもない、こーでもないと思考錯誤を

達事項などを伝えたあと、全員から一言ずつでも必ず意見がでていますか。

とりがきれいな花を咲かせ、老人クラブが地域の中

「もちろんやってるよ。当り前」という会長さんが多

できれいな花を咲かせられ

いでしょう。では、役員の皆さんと夢を語り合ってい

るように、みんなから注目

ますか? 夢というのは、

されるようになったら、老

今は無理(財政的にも)で

人クラブも活性化できるの

も「ゆくゆくは〇〇したい

ではないでしょうか。

その席で、会長さんから伝

会場は自治会館で、従来

管理を委託していましたが、

親寿会のメンバーが、ボラ

ンティア管理をするように

なり、自治会からも大変感

謝されています。当会とし

て、この一年余りに実施し

たことといえば、親寿会だ

よりを定期的、時には号外

も発行し、可能なかぎりの

情報を全会員にながし、ま

た、自治会には回覧で全住

民に、親寿会はどうなこと

をやっているのかを知って

もらう努力をしています。

会員の相互啓発のための勉

強会、各種専門家を招いて、

講習会などを始めています。

会のモットーは、全会員

は平等で「友好親睦」を旨

とし、人間の絆を強化する

ように努力しています。親

寿会ができたことで、町内

に多くの知人が増え、住民

同士の交流も進んできたよ

す。

思うことが会員を引き付

け、その雰囲気地域にひ

るがり、会員獲得につな

るのです。

◆会長の笑顔で会員獲得

ここでもまたまた会長さん

に質問。毎朝鏡に向かっ

て「にっこり」笑っていま

すか? 「ばかじゃないか。

そんなかつこ悪い」とのお

叱りを覚悟で聞きまし

た。会長さんはクラブの顔。

広告塔です。その会長さん

が苦虫を潰したようにぶす

うです。

さらに当会には「ゴルフ

同好会」もあります。年に

二回の大会を開催し、町内

の若い世代にも呼びかけ大

変好評です。これからも、

各会員の声を十分にくみ上

げ、楽しい企画を考えてい

くつもりです。

他クラブの良い面を学び

つつ、いわゆる老人臭を感

じさせない、シニア・フレ

ンドリークラブ作りに向か

って、力を合わせている最

中です。地域社会で活動す

る限り、自治会活動に積極

的に協力、子供会への支援、

社会福祉団体、教育関係へ

の貢献等々、我々に期待さ

れることは多いものと思

います。「小さな親切」「やさ

しい心遣い」を持って、お

互いに助けあっていくこと

が大事であると、しみじみ

感じます。

つとしているのは、老人ク

ラブにとって大きなマイナ

スイメージです。「あの会

長さん、いつも笑顔で素敵

と言われるように努力して

ください。会長さんが笑顔

↓役員が笑顔になる↓会員

も笑顔になる↓クラブ全体

が活性↓地域の皆さんから

魅力的に映る↓あんなに楽

しそうなら入ってみたい↓

会員獲得! となります。

まず、できることから始

めましょう。

鎌倉にあった映画館（資料は中央図書館、近代史資料室および渡辺朗氏の提供に負うところ大）

映画館名	所在地	付 記
快々亭 （明治末～大正 12 年震災焼失）	●長谷・柴崎牛乳、 一筋観音寄り角	●東京下町の親子来鎌し、寄席、大正 4 年から玉突き場としたが、大正 5 年前後から活動写真館に転進
鎌倉劇場 （大正はじめ、または 6 年 かろうじて倒壊をまぬが れた） ↓ 鎌倉松竹映画劇場 （再建～昭和 36 年焼失）	●塔の辻の大通り、 現在の由比ヶ浜 郵便局前、笹目 寸松堂隣。現在 マンション。	●芝居小屋として開館、しかし 浪花節が多かったが、のち活 動写真館。 ●再建後、芝居もやったが松竹 直営館となって以降は松竹二 番館であった。
鎌倉常設館 （大正 10 年～昭和 21 年） ↓ 鎌倉八幡前映画劇場 （昭和 21 年～23 年） ↓ テアトル鎌倉 （昭和 24 年～29 年） ↓ 鎌倉名画座 （昭和 29 年 12 月～35 年 6 月） ↓ 鎌倉東映 （昭和 35 年 6 月～39 年 9 月） ↓ 鎌倉名画座 （昭和 39 年 9 月～44 年 8 月）	●若宮大路段葛中 途を西へ入る ●つづき写真館前 ●鎌倉映画劇場と 書いている人も いる（金子晋他）	●日活無声映画から出発 ●戦後、東宝、大映 ●テアトル鎌倉の館名の時期が あって、29 年西口に同名館 開館で変更 ●昭和 33 年 2 月 テアトル興業系列入り ●昭和 39 年 9 月 名画座に戻り東宝系中心 だったが、最後は東映作品が上映されていた
鎌倉市民座 （昭和 23 年～25 年） ↓ 鎌倉市民会館 （昭和 25 年 3 月～39 年 10 月）	●現駿河銀行 （その前 1 階は ボーリング場、 2 階は商工会 議所）	●市民座の時期は野外劇場 ●主に一貫してアメリカ映画 ●特に洋画の特別試写会もあつ た ●市民は引き続き市民座とよんだ
テアトル鎌倉 （昭和 29 年 12 月～63 年 4 月）	●駅西口正面 ●リニューアルオープン （昭和 39 年 12 月） 1F ゲームセンター 2F 映画館	●東京テアトル興業系列となる （昭和 33 年） ●東宝映画中心に上映
鎌倉劇場（鎌倉シネマ） （昭和 31 年～39 年頃）	●御成通りから中 学方向に入り左	●上映物で近所の反対
大船オデオン （昭和 30 年～平成 6 年）	●大船駅前仲通	●藤沢オデオン姉妹館 ●寅さんものが多かった
他に大船館（大船劇場）腰越館の記録がある		

座談会要旨

青春懷古

鎌倉にあった映画館

その存在を検証する



出席者

島屋主人 今田 正廣
やまもも編集長・写真館館主 都筑 健一
中央図書館近代史資料室 平田 恵美
鎌倉で映画と共に歩む会代表 藤本美津子
司会・やまもも編集 門田 京蔵

え・和田 誠 山藤章二

われわれの世代にとって映画は一番親しい娯楽だった。しかし、六十年代からのテレビの普及、ビデオなどメディアの開発で映画は家庭で見えるものになんて変わってしまった。一期一会の気持ちで見たあの映画はあの映画館で見たという思いは強い。鎌倉に映画館がなくなって久しいが、今回は鎌倉にあった映画館を徹底検証して正確な記録を残そうと関心の深い五人で語り合った。

「小さい頃（昭和初期）、母に連れられ芝居や映画を観に鎌倉松竹によく行った。回り舞台や花道の設備が揃い、舞台上には三味線やピアノを演奏するスペースもあり、棧敷で座布団を敷いて寝転がって観た。」



鎌倉松竹映画劇場



鎌倉常設館
（テアトル鎌倉の館名の時）

昭和十年頃、椅子席に変わり、松竹直営館になってからは忠実なる二番館として松竹映画を上映した。「私は二十一年の『そよかぜ』から、木下・吉村・渋谷等の戦後の名作から、『晩春』以降の小津の松竹での作品はここで観た。二十九年の『二十四の瞳』の時だけ満員で通路に座ってみたが、『秋刀魚の味』の時は、この映画館はなかった。」

館名が頻繁に変わった常設館は、一時、後にできる「テ

アトル鎌倉」を名乗っていた時もあった、今回の話でも混乱した。ここははじめから活動写真館で日活の無声映画を弁士、バイオリン、ピアノ、三味線の伴奏で上映した。太鼓橋の前でチャンバラを演じて、「今宵は常設館にてお待ち申しております」と街頭宣伝もやった。映画館の前の写真館の都筑少年は「管理していた親切なおじさんに裏口から入れてもらった。棧敷席で後部には警察官の臨官席があった。邦画専門で阪妻主演ものの、戦争もの、『怪傑黒頭巾』が一番好きだった」。やはりこも十年には椅子席になっており、この館の慣習として休憩時間には左右の戸をあけ、空気の入替を行った。



テアトル鎌倉

二十九年末、駅西口前に「テアトル鎌倉」が開場し、東宝中心で「黒沢作品は主にここで見た。東映の吐夢の『飢餓海峡』があったが特別上映だったのか？。三十三年、「東京のテアトル」の直営館となり、さらに三十九年上・下分割しリニューアルしたが、客の入りが悪く、三十四年続いた西口の象徴も六十三年閉館せざるをえなくなった。閉館予告があった時、今日出席の藤本さんたちが「『テアトル鎌倉』の灯を消すな」と署名運動を行ったが残念ながら閉館。彼女たちは平成元年から「ムッシュ・シネマ（鎌倉で映画と共に歩む会）」を作り、年に何回か映画会を主催している。

「一回だけだったが次のフィルムが届かないのでお待ち下さい」ということもあった。戦後は東宝・大映の主要作品『わが青春に悔いなし』の黒沢から成瀬・今井（正）等の邦画最盛期の名作はほとんどどこで見られたが、座席数が少なかったので比較的混んでいた」。

今も懐かしがり、話題になるのが市民座である。現在の駿河銀行の場所に昭和二十三年～二十五年は野外劇場で、



市民座

雨の日は上映中止、暗くならないとはじまらない。主にアメリカ映画だが、時に洋画・邦画の試写会があった。二十五年に日本貿易博覧会場から、蒲鉾型の木造建造物を移築し、この時から「鎌倉市民会館」と呼び名が変わった。ボクシング試合・音楽会・前進座の芝居・文士劇・久米正雄の葬儀と多用された。この劇場は文士たち、小津監督も顔を見せ、一種独特の雰囲気があった。

鎌倉散歩 × 私の好きな昔の鎌倉

「廃寺」「碑」そして「鎌倉文士」

理智光寺跡探訪の記

浄明寺寿会 山本 照子



今から九年ほど前、「湘南鎌倉生涯現役の会」の一分科会(CPCの会)が『鎌倉の今昔(写真にみる史跡碑とその周辺)』をテーマに、種々調査を行った。当時これらの調査担当であった夫とともに、永福寺跡や理智光寺跡周辺を中心に調べてみた。

古き鎌倉を話しかけてくれる史蹟碑は、正式には「史蹟指導標」と呼ばれ、大正六年以降、代々の青年団・同人会・友青会などによって建立され、その数は八十余基におよぶ。史実の選択は大事・小事・軽重まことに多岐絶妙で、先人の英知には感服するばかりである。

永福寺旧跡は、建物こそ失われているが、雄大な背後の山なみ、遺構が偲ばれる発掘調査跡の原野で、この寺は頼朝が藤原氏や義経らの怨霊をなだめる鎮魂のための

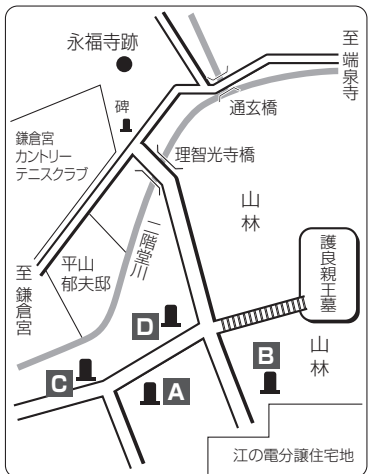
寺の碑から東南に二二〇メートル、二階堂川が二寺の境界であった。西は大塔宮の東出口前にある稲葉越橋からの一帯が稲葉越で寺の境内がこの地名に入る。そして浄妙寺の北に広くひろがる理智光寺谷―護良親王墓から南の谷

造営で、その壮大さは「雲軒月殿、絶妙比類なし」ともいわれた。この一帯は往柄天神・大塔宮・覚園寺・瑞泉寺、それに天園の登り口になっており、鎌倉歴史探訪のメッカでもある。

が、度々の大火や修理をくり返し、一三〇〇年前後の大火で二階堂焼失、一四〇五年にはほとんど炎上し堂宇は焼失したが、十五世紀半ばまで寺として存在した。

その後、この寺は衰微して同系の浄光明寺の慈恩院が兼務、あるいは管理していた。江戸時代には尼寺となり東慶寺の末寺になったらしい。そして明治初年の廃仏毀釈にあわせて廃寺となった。このころ石段の前に二、三間くらいの庫裡があり、隣にお婆さんが留守居をしながら手習いの師匠をしていた。

碑の調査のとき、古くからこの地に住んでおられた方たちにたずねたところ、碑は設置場所を三回転移させられたことがわかった。詳しくは左図を参照していただく、昭和七年建立当初は、**A地**

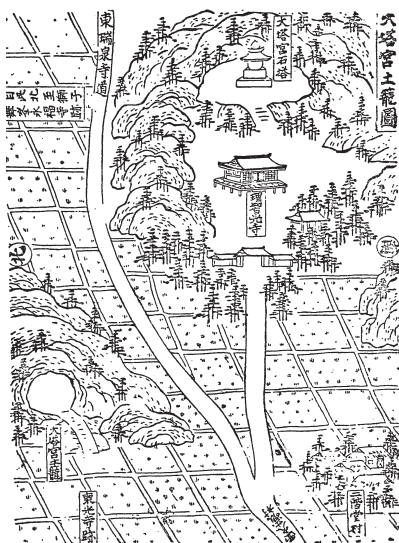


理智光寺跡碑の移動図

永井さんは東御門に住んでおられ、八幡宮境内の蓮池や茶店、往柄天神などを回り、そして理智光寺の碑を眺め、墓の階段を上がった。『理智光寺跡の谷は、二階堂の奥にある。藪中に投げ捨てられた護良親王の首を、ひそかに同寺の住僧が埋葬

寺・理智光寺・安養院を開いた。開山の年は不明だが、十三世紀の二、三十年ごろである。当時は理智光院と称し、碑文には「建武二年、一三三五年の護良親王殺害があつて、寺の長老がその首を葬った(太平記)」とあり、この寺を著名にした唯一の史実である。現在の親王の墓は山上にあり、当時の寺域内の一番奥北側山頂に位置していたのである(『新編「鎌倉志」参照)。

その後、この寺は衰微して同系の浄光明寺の慈恩院が兼務、あるいは管理していた。江戸時代には尼寺となり東慶寺の末寺になったらしい。そして明治初年の廃仏毀釈にあわせて廃寺となった。このころ石段の前に二、三間くらいの庫裡があり、隣にお婆さんが留守居をしながら手習いの師匠をしていた。

理智光寺の図
(『新編鎌倉志』所載) 1685

したという首塚は、この山上に残っている。山沿いの藪が尽きると、荒れた野原に「理智光寺義僧碑」が建ち、秋には曼珠沙華が一面に咲いたが、いまは整理されて擦れからしの鴉も下りて来ない。理智光寺という寺名も、何かの響きを持つているし、ほの暗い木立の中を、首塚まで数十段に及ぶ石段は永い歳月の跡をその一段一段に刻み、思い思いに波打った様を仰ぐのが好きで、私はよくここに来て佇むのだが(中略)頂上の首塚から、ひっそりと石垣に囲まれた上り口まで、杉木立の中を一気に流れ落ちるかのように急な石段は、すべて青く苔を敷いていた。』(永井龍男全集第一巻所収)

理智光寺跡の鴉と曼珠沙華
(東門居・龍男)



今回改めて、ゆっくりとこの石段を登ってみた。真正面四十六段、そしてちよつと平場があつて、次に八十三段、下からはこの部分は見えない。さらに左斜めに三十七段、ここに柵があつてこれを越えると二十七段、合計一九三段を数えた。いつ来ても人影のない深山幽谷の静寂の空間。鎌倉にはこんなところはめったにない。その奥に護良親王の御墓所があり、それにはあまりにも簡素で寂しく、そつと合掌した。

◆表紙の写真 鎌倉文学館

加賀百万石の藩主旧前田侯爵家の別邸を改築して開館した文学館。鎌倉にゆかりの深い作家・大佛次郎、川端康成、芥川龍之介などの直筆原稿や手紙、愛用品などを展示している。2 階からは緑に包まれた鎌倉の街並みと由比ヶ浜を見渡せる。また広い庭園は、春と秋にみごとなバラの花で彩られる。所要 30 分。

◆アクセス

江ノ島電鉄由比ヶ浜駅→徒歩 7 分
京急・江ノ電バス「海岸通り」バス停下車→徒歩 2 分

◆駐車場 なし

◆料金 入館 300 円～ 400 円
（企画展により異なる）

※福寿手帳提示により無料

◆営業時間 9 時～ 17 時

※ 10～2 月は 9 時～ 16 時 30 分

※入館は閉館 30 分前まで

◆休館日 月曜（祝日の場合は翌日）、展示替え期間

◆問い合わせ TEL 0467-23-3911

会員文芸



俳句

七里ガ浜句会 米澤せつ子
浜木綿や光りきらめく忘れ潮

七里ガ浜句会 敦賀 笑子
あかね雲天のかんざしさるすべり

山内瓜ヶ谷梅鶯会 山下カヨ子

同窓会名を呼びあいて秋日和
小菊咲く籠いっぱいに挿してみる
蟬時雨一人で聞きて生きにけり

新鎌倉山笹りんどう会 中久喜たい

鬼やんま見る事もなく秋深む

鎌倉の風の精かな秋の蝶

川波のひびき鮎宿五六人

秋旅行ペン一本とメモ一冊

七里ガ浜句会 倉本 ふじ

七里ガ浜句会 下條八州男

万緑に観音ひたりておわすかな

七里ガ浜句会 藤枝 笙

ふりかぶり砂浜叩く西瓜割り

七里ガ浜句会 松原 薫

いく重にも重なる花火目に残り



新鎌倉山笹りんどう会 志摩 悦子

トランペット花秋風に谷戸の土手

ななかまどたをれぬままのバスの内

鎌倉の谷戸は日の中稲架少し

庵船に波のやさしと錆洗ふ

浄明寺寿会 山本 照子

秋すだれ短かく巻かれ清方展

能の笛凜とつらぬく秋気かな

初鴨や源平池をふるさにと

洞窪を出てはればれと鳥渡る

新松子花嫁を待つ人力車



「君永遠に美しく」

～第 55 号かまくらゆかりの人～

昨秋のやまもも第 55 号で掲載した原節子さんの記事が、朝日新聞 3 月 18 日（土）の全国版に、一部引用してとりあげられました。

直後各地の原ファンから事務局に、掲載した会報紙を送ってほしいとの電話が殺到しました。今なお原さんの消息に、いかに関心が高いかがよくわかりました。

また、6 月にも「神奈川新聞」に同様の内容が載りました。



世界遺産登録への道

鶴岡八幡宮、円覚寺、若宮大路、和賀江島、名越切通、覚園寺他二十件程があげられており、すべてが国指定史跡として保護されています。

景観十年、風景百年、風土千年といわれます。市内全域にわたる会員は、豊富な経験と、名刹などの勉強から遺跡や史蹟など保全に努めて

おり、武家の文化を伝える唯一の都市遺産としての鎌倉を大切に、遺産継承への任を近づく団塊の世代に伝えることは、私たちの責務の一端であろうと思います。



武家の古都として町の風格や史蹟を後世に残すことは、世界遺産登録への原動力となつて、日々活動をしている老人クラブ連合会の担うべき役割かと思えます。「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」は鎌倉市がその発祥で、昭和四十一年に制定され、数多くの重要な自然の環境が守られてきました。いま、世界遺産登録への関心が高まっています

（都筑 健一）



安心して暮らせるまちを目指して 「犯罪被害にあわないために」 地域ぐるみで防犯に取り組もう

皆さんは「自分は犯罪被害とは無縁だ」と思っていないですか？

しかし、テレビや新聞では、日夜、犯罪被害の報道が後を絶ちません。犯罪者は、人間のわずかな心の隙を突いて、あの手この手を駆使して狙っているのです。

犯罪は、決して他人事ではありません。身近に起きている犯罪状況を知り、自分や家族などが被害にあわないように、防犯意識を持ち、防犯対策に心がけましょう。

市内では、高齢者が被害にあつた次の事件が発生しています。まず、身近な日常生活の防犯対策から始めましょう。

市内では、高齢者が被害にあつた次の事件が発生しています。まず、身近な日常生活の防犯対策から始めましょう。

【振り込め詐欺】

孫や子どもを装った犯人が、①使い込み ②連帯保証人 ③事故の示談金等、他人に相談できないような状況を設定し、現金をだまし取るという卑劣な犯罪です。

鎌倉市内においては、今年上半年で十二件の被害が確認され、被害者の大半が高齢者となっています。

《対策》

◎日ごろから身内との連絡

手段を確保しておく。

◎確認が取れなければ、振り込まない。

振り込む前に、最寄りの警察に相談しましょう。

【訪問販売等】

親切を装って近づき、必要のないリフォームや高額な商品購入を契約させるものです。昨年度の統計によると、鎌倉市内の消費生活相談の第一位が契約のトラブルで、六十歳以上の被害者による相談件数が全体の約三十五%を占めています。話術が巧みなセールスマンが多いようです。

市内では、高齢者が被害にあつた次の事件が発生しています。まず、身近な日常生活の防犯対策から始めましょう。

《対策》

◎不用意に話を聞かない、ドアを開けない。

◎必要のないものは、はっきりと断る。

など、毅然とした態度で対応しましょう。

犯罪者を寄せ付けない、犯罪被害にあわないためには、一人ひとりが防犯意識を持つことが大切です。また、最近では、子どもを狙った凶悪事件が発生する社会状況でもあることから、地域の連帯感・結束力を高め、地域ぐるみの防犯への取り組みを推進していきましょう。(安全安心推進課)

発足

「子ども安全パトロール隊」

安全安心の町づくり

鎌倉第二地区極楽寺橋会
山下ヨシ枝

昨年、下校中の児童を狙う痛ましい事件が相次いで起き、学校や保護者はもちろんのこと、一般社会にも衝撃が走り憂慮する事態となりました。日ごろから町内でも防犯に心がけ対策を進めてきましたが、地域内にある稲村ガ崎小学校のPTA役員および保護者より、地区内の老人クラブに協力要請があり、昨年十二月末、稲穂会・若葉会・橘会・山百合会の会員による「子ども安全パトロール隊」(現四十一名)が発足いたしました。

町内会役員は腕章をつけて

で見守り、老人クラブ会員は「防犯パトロール実施中」の黄色いプレートを外出時に必ず携帯し、バッグや持ち物などに吊り下げて行動します。自転車や車を利用する人は車両用プレートをつけます。

「防犯パトロール実施中」の腕章やプレートによって、地域住民が力を合わせて取り組んでいることでアピールできれば、犯罪の抑止力効果に繋がると思っています。

昨年の終わりごろは、登下校時の子どもたちについてのように声をかけても何も言葉が返ってきませんでした。夕暮れ時、遊んでいる子どもに地元の人が「寒くなるから早くお家に帰きなさい」と言うと、怖がるように急に逃げ出してしま

い、その様子に驚いたと話していました。後で分かったことですが、子どもたちは知らない人と話をしているため、安心して「こんにちは」「どこ行くの」と、子どもたちの方から声をかけてくれるようになりました。

老人クラブも地域の中に溶け込み、学校やPTAと連携しながら無理なくできることから協力し、純真な地域の子どもたちを守るため、犯罪を起こさせない、犯罪にあわせない環境づくりが必要だと思っております。



いけないと教えられ、警戒していたのです。無理もないことです。

最近では子どもたちの意識にも変化が感じられます。「子ども安全パトロール隊」のプレートを吊り下げてい

お知らせ

仲間づくり いさいき健康 マージャン入門教室 参加者募集

◆開催期間 1/16 (火)、1/30 (火)、2/6 (火)、2/13 (火)、2/20 (火)、3/6 (火)、3/13 (火)、3/20 (火)

◆開催場所 手広西公会堂 (深沢消防署徒歩 5 分)

◆開催時間等

◎入門 (初級) 教室 15 時～17 時 (定員 35 名)

◆募集要件 市内在住概ね 60 歳以上

◆参加費 全 8 回 8,000 円 (テキスト代別途)

◆応募方法 (募集期間 12/1 ～ 12/10 必着)

◎老人クラブ会員は地区長に申し込むこと。

◎一般の方は往復はがき (はがき記入例参照) にて。

※はがきの裏に①事業名②住所③氏名 (ふりがな)

④年齢⑤性別⑥電話番号を記入しご送付ください。

(返信には住所・氏名を必ず記載してください)

〒248-0036 鎌倉市手広 4-9-26 坂尻正行宛

※問い合わせ ☎ 61-3930



今号の やまももさん
十二所第一ちとせ会
伊藤正子さん（99 歳）

「ただ夢中で働き、百姓でどろまみれだったけど、年中楽しかった」と太陽のような明るい笑顔を浮かべ、元気はつらつの伊藤さんは、明治四十一年十月二十五日、山梨生まれ。二十

六歳のときに鎌倉へやってきた。山梨では小さい子どもから大人まで女性はおんべをはいていた。当時腰巻が主流だった鎌倉で機能的なおんべは重宝され、皆に作り方を手ほどきしたという。子どもたちの通学服もそう

ない家は困る。だから全員揃えて制服にしてほしい」と校長に直談判し、制服を導入させた。昔からリーダー格だった伊藤さんの果敢さがうかがえる。

また、忘年会では都々逸で自慢の歌声を披露し、まわりを盛り上げる一面も。

「生きてるうちに大事なことが全部やっちゃった」と笑う伊藤さんのパワーの秘密は、「あれがいやだ、これがいやだと言わないで、人のために自分のできるこ

とは何でも一生懸命すること」。矢面に立って地域を引っ張り、「先頭に立って皆をまとめて後押ししてくれる」と地域の絶大な信頼を得る。自分さえ良ければそれでいいという風潮の現代のまさにお手本である。

優しいご家族にも囲まれて、今日も伊藤さんの周りには微笑みと明るさが絶えない。お話を終え外に出ると雨もあがり、どんよりしていた空がパッと明るくなっていた。

◆スポンサー各位へ御礼◆

「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚く御礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

ゆめクラブ鎌倉

★おことわり

巻末シリーズ「鎌倉散歩」は拡大版として九面に掲載しています。

加入促進が問題視される今、本紙「やまもも」も活性化の一端を担うと考え、今後さらなる紙面の充実を図りたいと思います。読者のみなさんの率直なご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

また、あわせて「ゆめクラブ鎌倉」へのご意見も募集いたします。日ごろ考えている運営改革、単位クラブ運営の悩みなど、中央に伝えたい事をどんなことでもよいので、明記のうえ提出して下さい。今回の提言は必ず連合会役員に届け、今後の運営に反映いたします。どんな紙でも形式は自由ですので、ご記入のうえ「ゆめクラブ鎌倉事務局」に提出ください。

248-8686 鎌倉市役所
高齢者福祉課内
ゆめクラブ鎌倉事務局
「やまもも」
アンケート係

A：①、②、③
B：①、②、③
C：_____
D：保存または廃棄
E：_____
F：_____

《記入例》

A：一番はじめに関心深く読む記事

【①～⑭のうち順番を付けて3つ選んで下さい】

- ① かまくらびとに聞く
- ② 一頁エッセイ（不定期）【理智光寺跡探訪など】
- ③ 鎌倉ゆかりの人【中野孝次、原節子、横山隆一など】
- ④ ゆめクラブ鎌倉の動き【総会・功労者の集い報告など】
- ⑤ ゆめクラブ鎌倉の動き【老人大学寿講座状況報告】
- ⑥ ゆめクラブ鎌倉の動き【スポーツ行事等報告】
- ⑦ ゆめクラブ鎌倉の動き【研修旅行のレポート】
- ⑧ 単位クラブ紹介、地区活動紹介
- ⑨ 老人クラブ加入促進関連記事
- ⑩ 投稿コーナー【私の海、大船撮影所、私の秘密の場所など】
- ⑪ 行政からのお知らせ
- ⑫ やまももさん
- ⑬ 文芸【俳句】
- ⑭ 鎌倉散歩

B：あまり関心がなく読みとばしてしまうものがあればご記入下さい。（①～⑭の番号記入でも可）

C：“こんな記事があれば…”という企画があればいくつでもよいのでご記入下さい。

D：本紙は「保存」か「読後廃棄」どちらですか？

E：本紙の総体的なご意見、ご感想をご記入下さい。

F：「ゆめクラブ鎌倉」へのご意見を記入下さい。

＜応募締切＞
平成19年1月10日（水）

★アンケートに投稿された方全員に“粗品”を進呈いたします！ただし、粗品を差し上げるのは会員のみとさせていただきます。

★今回の投稿分についてはできる限り次号の紙面に反映していきたいと思っておりますので、ふるってご応募ください。

原稿募集ー投稿規定ー

会員の皆さまからのご

投稿をお願いいたします。

◎原稿用紙は「やまもも」専用用紙（12 字×13 行）使用。用紙は編集部宛てご請求下さい。

◎次号「鎌倉海浜ホテル」を特集予定。ホテルの思い出がある方は、はがきにてお寄せください。

◎「単位クラブ活動紹介」六三〇字、「自由題」六〇〇字、「すすめたい鎌倉観光スポット」六六〇字程度（いずれも写真二、三枚添付）。詩、短歌、俳句、川柳などもお気軽にどうぞ。お待ちしております。

◎送り先 〒248-1868 鎌倉市役所高齢者福祉課内ゆめクラブ鎌

倉事務局（鎌倉市御成町18-10）まで。

◎原稿締め切りは、平成十九年二月末日まで。

※紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。

編集後記

▼「やまもも」もリフレッシュして、早や八号となりました。ここら辺りで今後の内容編成を検討したいと思い、皆さまの率直なご意見を伺うことにしました。是非アンケートにご協力下さいますよう、お願いいたします。

